



学校だより

平成28年3月25日 第14号

さいたま市立大宮東中学校

E-mail omiyahigashi@saitama-city.ed.jp

物を大切する心を育む

教頭 富田 敦

私はおしゃれなほうではありません。どちらかというと、服装や持ち物には無頓着なほうで、少しはそういうものにも気がついたほうがいかなと反省することがしばしばです。こんな自分ですが、傘にはほんの少し思い入れがあります。お店に素敵な傘があると近づいて手に取ってみます。今愛用しているのは、骨が16本ある紺色の傘と紅色の傘です。紅色のは水にぬれると柄が浮き出てくるものです。ともにさほど値段は高くないのですが、気に入って使っています。雨は好きではありませんが、気に入った傘を持って歩くことで、好きではない雨の日の生活に少しでもアクセントをつけたいと思っています。

さて、生徒昇降口の傘置場です。持ち帰ることを忘れてしまい、たくさんの傘が置き傘状態になってしまっています。その多くが、ビニール傘です。またそのほとんどに名前の記入がありません。持ち主にとっても、返すに返せません。本校だけがそのような状態かということ、そうではなさそうです。社会の中でもビニール傘は使い捨てというイメージが定着しています。

ビニール傘が一概にだめだとは思いません。ビニール傘にちゃんと記名をして大事に使っている人もたくさんいます。コンビニやバス車内で手軽に購入できるので、急な雨の時に助かったという経験をたくさんの方がもっていることでしょう。しかし、ビニール傘は使い捨てという意識をもって、日常的に登下校の際、使うのは望ましくないかなあと思っています。やはり、傘も含め、物は大切に思っしてほしいという願いを私はもっています。なぜなら、物を大切にすることは、人を大切にすることに通じると思うからです。雨の朝、色とりどりの傘が学校の門をくぐります。4月からは、生徒昇降口に置きっぱなしになるビニール傘が少しでもなくなることを期待しています。

先日の第69回卒業証書授与式は、多数のご来賓をお迎えし、厳粛な雰囲気の中で行われ、116名の卒業生はこの学び舎を巣立っていきました。来賓の方々からは、「毎年感動的な卒業式ですが、今年は特に素晴らしかった。特に歌に感動しました。」とお褒めをいただきました。これも毎日一生懸命学校生活を送っている生徒、それを熱心に指導している先生方を評価していただいたものにとらえています。これを励みにこれからも頑張っていきます。



116名全員が壇上で卒業証書を受け取りました。



今年も立派な態度で東中を巣立っていきました。

学校教育目標 **輝く命 生きる力**

目指す生徒像 ○たがいに鍛え、競う生徒
○たがいに結び、励む生徒
○たがいに求め、学ぶ生徒

答辞

暖かい日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じさせる今日、このよき日。私たち 116 名は今まで慣れ親しんだ大宮東中学校から旅立ちます。

大きすぎる制服のポケットに期待と不安をつめこんで校門をくぐった 3 年前のあの日。あの日から私たちの中学校生活が始まりました。教科ごとに担当の先生が変わる授業、英語という新しい教科、部活動における先輩と後輩の壁。年に 5 回ある定期テスト。全てが初めてで戸惑うことばかりでした。しかしそんな戸惑う気持ちを仲間と共有しお互いを思いやることで少しずつ中学校生活に慣れることができました。



時に笑い合い、時にぶつかり合い、たくさんの人に見守られながら過ごした三年間。

1 年生。東京校外学習では道に迷ったり予定通りにいかなかったりすることもありました。けれど班の仲間と知恵を出し合い、協力することで乗り切ることができました。

2 年生。館岩自然の教室では初めての宿泊行事に緊張しながらも、「いままでの反省を生かして絶対に成功させる」という強い気持ちを仲間と分かち合いました。おかげで成功を収めることができ、もうすぐ最高学年だという自覚も芽生えました。

このような大きな行事を通して私たちはチーム青学年としての団結力を深めることができました。三年生になってからはありとあらゆるところに「最高学年としての責任」が求められるようになりました。

熱い情熱をもってぶつかり合った体育祭。学年種目は毎年恒例の大縄跳び。1 年生の時は並び方も分からず、30 人近くが一列になって飛ばうとして学年の先生方は大笑いしていました。そんな大縄跳びも学年を重ねるごとに上達し 3 年生ではどのクラスも 100 回を超えることができました。

京都奈良で古の文化に触れた修学旅行。「Let's enjoy 京都奈良 歴史と文化を学んであじわい 魅せよう我らの集大成」のスローガンのもと、初めての土地に戸惑いを覚えながらも自分たちの立てた計画に沿って京都と奈良の町を散策し、先人の知恵や文化に触れることができました。

ホールいっぱい歌声を響かせた合唱コンクール。練習がなかなかうまくいかず悩んだり苦しんだりしました。それでも支えてくれる仲間がいたから様々な問題を乗り越えることができ、本番では美しいハーモニーを奏でることができました。

私たちがこの 3 年間仲間とともに過ごして来られたのは様々な人の支えがあったからです。

先生方。本当にお世話になりました。時に優しく、時に厳しく私たちを指導してくださいました。今こうして卒業式を迎えられるのは先生方が私たちを正しい道へと導いてくださっておかげです。この 3 年間で先生方にかけていただいた言葉の一つ一つを私たちは絶対に忘れません。本当にありがとうございます。

保護者の皆様。たくさん心配をおかけしました。多感な時期の私たちは、たくさん反発してしまいました。それでも根気強く私たちと向き合ってくれました。おかげで今こうして旅立ちの日を迎えることができます。本当にありがとうございます。

地域の皆様。毎朝登校のとき優しい笑顔で私たちに「いってらっしゃい」と声をかけてくださいました。おかげで私たちは毎朝気持ちの良いスタートを切ることができました。学校の行事にも来て下さり温かく見守っていただきました。本当にありがとうございます。

1 年生の皆さん。皆さんとは 1 年しか共にいることができませんでした。元気がよく皆さんの勢いに刺激を受けることもありました。何事にも熱心なみなさんならきっとこれからの東中をよりよくしてくれることでしょう。

2 年生の皆さん。皆さんは私たちにとって初めての後輩でした。部活動や委員会・生徒会などでとても頼りがいのある学年でした。私たちは自信をもって皆さんに「東中の伝統」という名のバトンを渡すことができます。明日からは皆さんがこのバトンを握りしめ、さらに次の代へと引き継いでいってください。

最後に青学年のみんな。いろいろありましたね。大会やコンクールに向けて汗を流しながら部活動に打ち込んだこと。返ってきたテストの結果に一喜一憂したこと。行事のためにみんなで知恵を出しあい、団結したこと。そして今日の卒業式のために毎日練習したこと。今思い出すとどれも特別な思い出です。辛いことや悲しいこともあったけれどみんながいたから乗り越えることができました。みんなありがとう。

ドイツの劇作家 アウグスト・フォン・コツツェブーはいいました。「友情は瞬間が咲かせる花であり、そして時間が実らせる果実である」と。三年という時は友情の果実を実らせるには短い時間だったかもしれません。しかし、この短い時の中で私たちは友情の花を咲かせることができました。

この花がいつか実を結ぶことを信じ、私たちはこの 3 年間で得た知恵と経験と友情とそして仲間との思い出を胸に、昨日でも明日でもない今日を、過去でも未来でもない今を翔け抜けて行きます。

最後になりましたが本日私たちのためにこのような素晴らしい卒業式を開いてくださった校長先生をはじめとする諸先生方・ご来賓の皆様・地域の皆様・保護者の皆様にご心からの感謝を申し上げますとともに、これからの東中を担っていく在校生の皆さんと 70 周年を迎える大宮東中学校のますますのご発展を願い答辞とさせていただきます。

平成 28 年 3 月 15 日 卒業生代表 小林航汰朗